

令和5年度
事業報告書
(令和5年4月1日～令和6年3月31日)

社会福祉法人あいあい福祉会

特別養護老人ホーム みず和の郷
ショートステイ みず和の郷
居宅介護支援事業所 みず和の郷

社会福祉法人あいあい福祉会

【法人基本理念】

『共に生きる しあわせ』

【みず和の郷基本理念】

- 1、 お年寄りが人としての尊厳をもって地域や施設の中で、その人らしい 自立した生活を送れるように支えていきます。
- 2、 職員が和を持ち、「奉仕・愛情・信頼」の心を根幹として、毎日が心豊かな日々でありますよう全力をあげてお守りいたします。
- 3、 施設が地域住民・関係団体と活発に交流し、地域と共に生きることを目指していきます。

【みず和の郷基本方針】

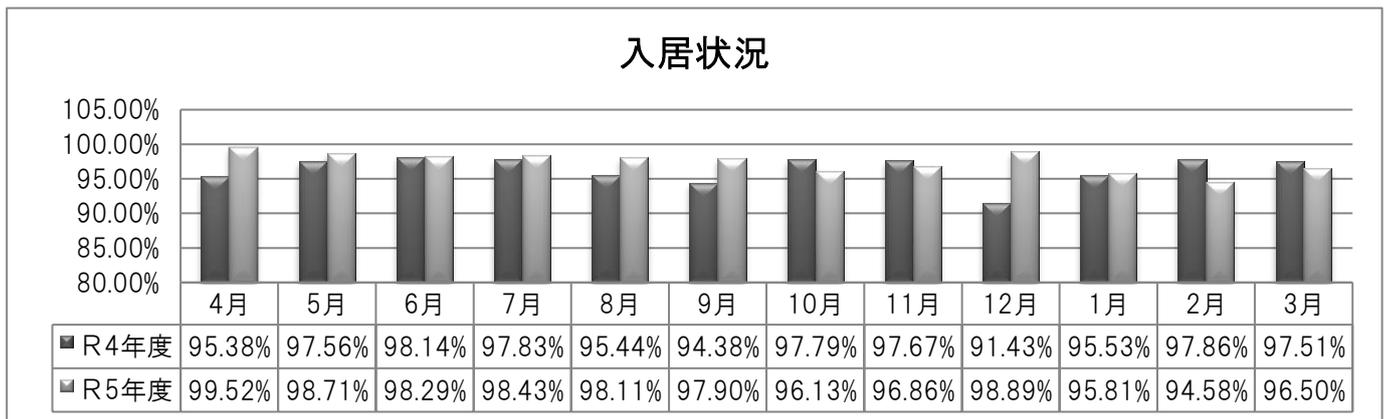
- 1、 お年寄りの人権を守り、心身ともに健やかな生活を営むことのできる生活支援の取り組みに努める。
- 2、 お年寄りと職員が、介護を通じて相互の信頼関係の強化に努める。
- 3、 お年寄りと職員が、共に生きる喜びをあげることのできる施設造りをする。
- 4、 職員すべては、その職務において介護の専門性を向上させるため、学習とその実践に邁進する。
- 5、 お年寄り一人ひとりが豊かな生活の確保と地域社会に参加できるように支援する。

《支援部門》

1、特養入所状況

	入居者（人）			延べ日数 合計	居室 稼働率		入居者（人）			合計	居室 稼働率
	入居者数	入居	退居				入居者数	入居	退居		
4月	69	1	1	2,091	99.57%	10月	70	1	1	2,086	96.13%
5月	69	1	1	2,142	98.71%	11月	69	1	2	2,034	96.86%
6月	70	3	2	2,064	98.29%	12月	70	2	1	2,146	98.89%
7月	70	0	0	2,136	98.43%	1月	68	2	4	2,079	95.81%
8月	69	0	0	2,129	98.11%	2月	69	5	4	1,920	94.58%
9月	70	3	3	2,056	97.90%	3月	70	4	3	2,094	96.50%
合計	令和4年度 月平均稼働率 96.38%										
	令和5年度 月平均稼働率 97.48%										

- 前年度と比較し稼働率は1.1%増加。新型コロナウイルス感染症が蔓延したこともあり、退所者は前年とほぼ同数だったものの、入院者数・入院日数が大幅に減少したことが稼働率増加に繋がったものと考えられる。



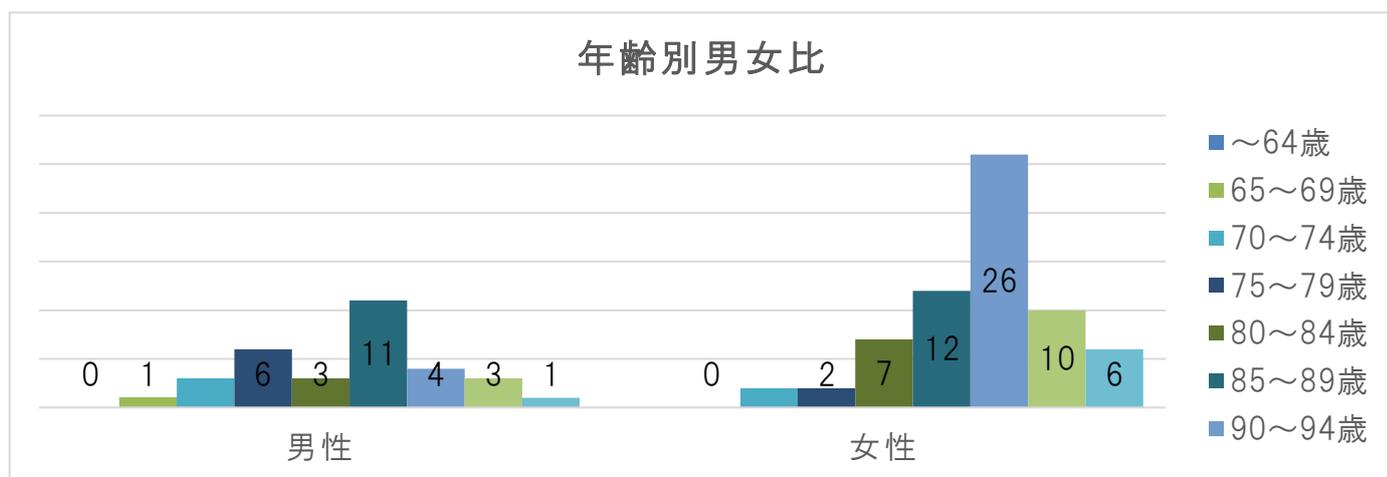
入院者数・延べ日数

R4年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	6	5	2	3	5	6	3	2	7	7	5	2	53
延日数	82	36	23	47	117	101	24	39	104	82	35	44	734
R5年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	0	2	3	3	3	5	5	3	1	5	6	2	38
延日数	0	27	19	34	38	36	79	61	9	71	60	42	476

2、在籍者別年齢・要介護度等



平均介護度 4.28 (男性 3.83、女性 4.42)



平均年齢 87.9歳 (男性 85.1歳、女性 89.4歳) (最高 102歳、最低 66歳)

- ・昨年に比べ男性の平均年齢が上昇し、女性はやや下降。平均年齢はやや低下し、平均介護度には大きな変化は見られなかった。

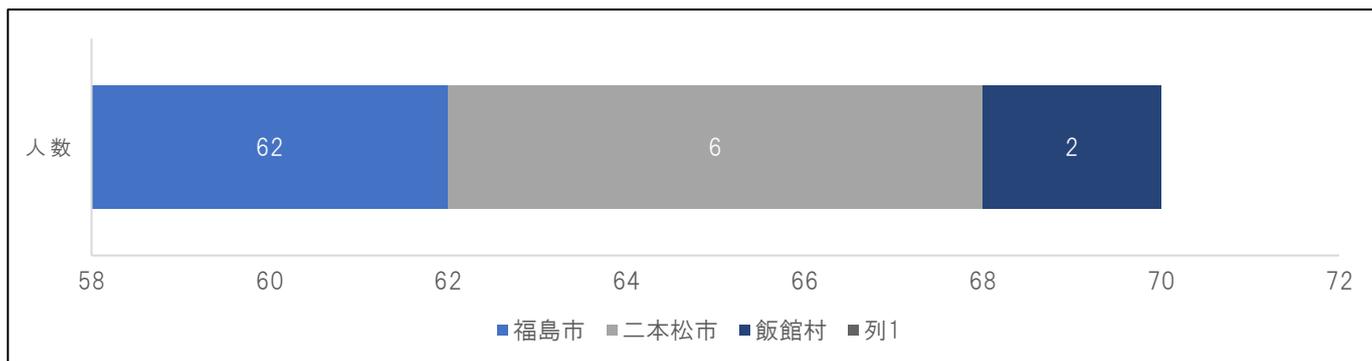
3、在所期間入所者状況 (退所者含む)

(令和6年3月31日現在)

	1年未満	1年以上 3年未満	3年以上 5年未満	5年以上 10年未満	10年以上 15年未満	15年以上	合計
男性	7	14	5	4	0	1	33
女性	16	16	16	9	3	1	61
合計	23	30	21	13	3	2	92
割合(%)	25.0%	32.6%	22.8%	14.1%	3.3%	2.2%	100%

平均在所日数	男性	女性
3年2ヵ月	2年7ヵ月	3年5ヵ月
最高在所日数	15年1ヵ月	17年5ヵ月

- ・長期入居した方が退所したため平均在所日数は4月短くなった。平均年齢や介護度はほぼ前年度と同様となっているが、10名の看取りを行った。



5、令和5年度特養活動報告

I. 介護支援専門員

- 令和5年度は1月にコロナが蔓延し1・2月の入院者は増えたものの、1年間を通しての入院者数・入院日数は前年度を大きく下回り居室稼働率の増加に繋がった。
- 入院し医療施設への転居を希望され退所となった方が2名いたものの、施設での看取りを希望されるご家族も多く3月末時点で看取りの方は8名＋看取り介護に準ずる対応を行っている方が3名となっている。1年間で10名看取り介護の方を見送ったが、そのうち看取り期間が1年以上の方が4名、一方3ヶ月以内の方が5名で適切な時期に看取り介護へ移行し短期間に手厚い介護を提供することができたのではないかとと思われる。
- 入退所や入退院が多い時期もあったものの生活相談員と連携しカンファレンスを開催、情報共有を図りスムーズな受け入れができるように調整を行った。
- より良いケアを提供できるように日頃から情報収集とご入居者の心身状態の把握に努め、各部門と協働して状態変化にも迅速に対応できるように努めた。
- コロナ蔓延により直接面会もオンライン面会も一時止めざるを得ない状況の中でも、生活相談員と連携しご家族への連絡を細やかに実施することで面会できない現状でも安心していただけるよう努めた。
- リハビリ職員・看護師の協力を得て福祉作品展や花見など回数は少ないながらも外出の機会を提供することができ、ご入居者のみならずご家族からも感謝の言葉を頂けた。ご入居者の生活の質向上のためにも6年度も実施できればと考えている。

II. 生活相談員（特別養護老人ホーム）

年度	R1	R2	R3	R4	R5
居室稼働率%	96.89	98.27	97.31	96.38	97.48
入所者数	24	12	12	23	23
退所者数	26	11	12	23	22
平均介護度	4.08	4.12	4.29	4.26	4.28
入院実人数	46	21	45	53	38
入院延日数	587	393	597	734	476

- 嘱託医の指示により通院せず施設で経過をみて最期までというケースも増え、入院実日数と延べ日数が大きく減少したことが稼働率上昇に大きく影響していると考えられる。
- 迅速なご家族への報告により、クレームも無くご家族との信頼関係の構築が有る程度できてきていると予測できる。

- ・施設 CM にも積極的に施設入所申し込み面談、見学対応等のご家族対応をしてもらうことで生活相談員不在時にも入所申し込み対応が可能となり入所申し込みがスムーズに対応できたことで、入所待機者が少ないながらも年間を通して安定して確保できた要因となったと思われる。
- ・食事量低下より胃瘻造設したケースが今年度2件あった。他部門と協力し状態悪化の判断やご家族の意向の確認、迅速な対応の結果と考えられる。
- ・新型コロナウイルス感染症蔓延からの退所も増えたことにより退所者が去年の同件数となったが、ショートステイを長期活用するなど比較的スムーズな入所対応が出来たことで大きく稼働率を低下させることが無かった。
- ・外出企画を支援部門が率先してリハビリ・看護職員に声を掛け合い企画実行できたことで、入居者の気分転換になっただけではなく、ご家族からの感謝のお言葉を頂き、外出の大切さを改めて考えられる機会となった。また年度終了時点では既に逝去、または状態が低下され外出が困難な状況になっているご入居者もあり、高齢者の「今」が大変意味があるものであると感じた一年だった。
- ・新型コロナウイルス感染症の流行により、地域行事への参加やボランティアと介護等体験実習生の受け入れが実施できなかった。新型コロナウイルスが5類に引き下げられることから来年度は積極的に活動していきたい。

6、ショートステイ実績、活動報告

月 理由別		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
	利用者数	男	10	9	13	8	12	10	12	11	10	6	5	9
	女	15	14	16	17	17	19	18	20	22	20	22	23	206
延べ 利用 日数	支1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	支2	0	0	0	0	0	13	0	0	0	0	0	0	13
	1	43	55	63	66	54	59	78	83	68	80	68	75	792
	2	7	9	6	13	25	37	51	36	47	41	52	81	405
	3	89	63	86	75	107	87	78	93	133	154	86	75	1126
	4	45	43	56	76	67	63	75	23	24	18	29	22	541
	5	49	63	28	53	49	24	20	18	22	14	9	25	374
	計	233	233	239	283	302	283	302	253	294	307	244	278	3238
稼働率	%	38.8	37.6	39.8	45.6	48.7	45.0	48.7	42.2	47.4	49.5	42.1	44.8	44.2
R4年度	%	48.8	44.7	46.7	47.7	44.7	39.7	35.3	41.2	21.3	40.2	46.4	38.7	41.3

※1ユニット休止

令和5年度 ショート稼働率及び新規利用者数



【居宅介護支援事業所名】	(人数)	(定期)	【居宅介護支援事業所名】	(人数)	(定期)
居宅介護支援事業所みず和の郷	13	9	二本松社会福祉協議会	3	2
ライフ・タイム福島居宅介護支援事業所	10	9	指定居宅支援事業所かがやき	1	0
あづま脳外居宅介護支援事業所	2	2	あだたら荘指定居宅介護支援事業所	1	0
リブレ松川居宅介護支援事業所	1	0	けやきの村指定居宅支援事業所	3	1
指定居宅介護支援事業所 ひまわり苑	1	1	まごころケアサービス二本松	1	1
土湯宝生園指定居宅介護支援事業所	1	0	ふくしま緩和ケア支援事業所	1	1
指定居宅介護支援センター松陵	2	1	居宅介護支援事業所万葉	1	1
よろこび介護支援センター	2	1	SOMP ケア	1	1
指定居宅介護支援事業所あだたら	4	4	コパン居宅介護支援事業所	1	0

- ・長い期間ご利用頂いたご利用者が逝去されたり、状態悪化等で在宅生活困難となり弊社特養へ入所されたりと定期のご利用者の入れ替えが多い年度だった。
- ・ショートステイ担当リーダーと話し合い、ショートステイのご利用希望される方にご利用して頂くために新規の受け入れ相談時には断らず、積極的に新規を受け入れたことが稼働率のアップにつながったと考えられる。
- ・また、エリアにこだわらずに部屋に空きがあれば迅速に動くよう心掛け、今までご利用の無かった居宅等からのご新規を獲得出来たことや、施設 CM にもショートステイの契約・実態調査の対応を依頼でき職域を超えた連携により支援部門の体制が一人減少し担当者が変更となったにもかかわらず稼働率の上昇に繋がったと考えられる。

《介護部門》

○しゃくなげユニット

4月	誕生会	9月	誕生会、敬老会
5月	母の日	10月	誕生会
6月	紫陽花見学、父の日	11月	紅葉見学
7月	七夕短冊作り	12月	誕生会
8月	夏祭り、誕生会	2月	豆まき

《活動報告》

- 1、24時間シートの見直しを行い、こまめな修正を心掛けた。
- 2、看取り、終末期を迎えたご入居者の対応、ご家族への近況報告など職員一人ひとり誠意を持って対応にあたる事が出来た。
- 3、誕生会等の行事計画は感染症蔓延防止対策等で計画、実施と至らなかったこともあったが、全員参加型のレクの企画は定期的の実施できた。

○しらかばユニット

4月	花見	9月	敬老会
5月	母の日	10月	菊人形見学
6月	父の日	11月	秋祭り
7月	紫陽花見学	12月	クリスマス会（忘年会）
8月	誕生会	2月	豆まき

《活動報告》

- 1、ご入居者の生活スタイルや心身の状態、変化に対応し、安心して生活して頂く目標に対し、心身の状態変化に気づく観察力はあったが、それらを具体的にケアに反映できている部分と反映できていない部分があった。
- 2、令和6年の1月初旬から1ヵ月超にわたり、施設内での新型コロナウイルスのクラスター発生があり、結果的に2名の退所者を出してしまった。
- 3、施設内外研修に参加し、自己研鑽に励んだ。
- 4、上半期は各職員持ち回りでイベント企画を行った。下半期では感染症拡大防止の観点から予定通り行事が実施出来なかった。

○さくらユニット

4月	誕生会	9月	敬老会、誕生会
5月	母の日、誕生会	11月	誕生会
6月	父の日、誕生会	12月	誕生会
8月	納涼会	1月	誕生会
		2月	豆まき、誕生会

《活動報告》

- 1、ご入居者の習慣について把握出来ていて、声掛けも適切に行えていた。
- 2、ご入居者の状態の変化にユニット内で話し合い、随時対応する事が出来た。
- 3、毎月ユニット会議を開催し、職員間の意見交換は行えた。
- 4、ユニット内の定期的な清掃を心掛け実施できた。
- 5、コロナ感染対策をしながら誕生会を中心にできるだけ行事を心掛けた。

○もみじユニット

4月	誕生会	9月	敬老会
5月	母の日	10月	誕生会
6月	父の日	12月	誕生会
8月	隣ユニット合同納涼祭、誕生会	3月	誕生会

《活動報告》

- 1、生活リズムやそれぞれの残存機能を意識しながらケアにあたる事ができた。また、ADLの面では機能訓練の介入もあり、情報共有や連携をとりながら関わることができた。
- 2、職員間のコミュニケーションはよく取れており、自然と互いにサポートができていた。
さらに、声掛けや対応に関して互いに指摘し合う事ができる関係性を目指すことができた。
- 3、全体的に清掃や環境整備が行えていた。
- 4、24時間シートについて意義や作成方法などの周知を図った。

○けやきユニット

4月	誕生会	10月	紅葉見学、誕生会
5月	誕生会、母の日	11月	菊人形見学、誕生会
6月	誕生会、父の日	12月	クリスマス会
7月	七夕	1月	新年会
8月	夏祭り	2月	バレンタイン、豆まき、誕生会
9月	敬老会	3月	ひな祭り、誕生会

《活動報告》

- 1、ご入居者本位で、職員間で統一したケアを心掛けた。
- 2、情報共有やケアの統一等について、会議形式以外にも随時職員間で話し合いがなされた。
- 3、感染対策について、他部門と連携を図り、備品の準備、居室の環境整備、ユニットの清掃、換気等を細目に行うことによって、職員が少なくなった時でも必要業務を継続的に行えた。
- 4、24時間シートの勉強会を行うことができた。

○あだたらユニット

4月	花見ドライブ、誕生会	9月	敬老会、誕生会
5月	母の日、誕生会	10月	調理レク
6月	誕生会	11月	干し柿作り、調理レク
7月	運動会、誕生会	12月	クリスマス会、調理レク
8月	百寿祝、隣ユニットと夏祭り	3月	誕生会、調理レク

《活動報告》

- 1、誕生会の在り方を再度、検討し「その方が何を喜ばれるか？」をモットーに計画していく事ができた。
- 2、1月はコロナ禍にて感染対応のため予定していた行事も一切行うことが出来ず、会議体も開催できなかったが、対のユニットで情報共有を図り対応に不備の無いよう、職員の不安がないように対応することが出来た。
- 3、行事のあり方を見直し、ご入居者の健康増進を第一に対応を検討し「味噌汁作り」と一緒に行う様にした。

○ささもりユニット

4月	誕生会	8月	誕生会
5月	母の日	11月	誕生会
6月	父の日	12月	クリスマス会
7月	会食イベント、誕生会	3月	誕生会

《活動報告》

- 1、ユニット会議等を活用し、居室担当が24時間シート作成についての発信を行い、評価・見直しを行った。
- 2、ユニット内の清掃や環境整備について、職員が高い意識を持って取り組めた。
- 3、事故予測で職員間の意見交換が積極的に行われ、充実した対策を立てることができた。
- 4、新型コロナウイルスの対応が継続する中でも、外出等の日常生活での変化を心掛けた。

○ショートステイ

4月	おやつレク	9月	敬老会、料理レク
5月	母の日	10月	季節のスイーツレク
6月	父の日	11月	料理レク
7月	花火レク	12月	クリスマス会
8月	手作りスイーツレク	3月	料理レク

《活動報告》

- 1、様々なご利用者に合った環境作りを心掛けた。
- 2、新規利用者獲得と稼働率向上に努めることにより、前年より稼働率を上げることができた。
- 3、感染症発生時の対応に慣れている職員が多く、比較的混乱無く対応出来ていた。
- 4、職員間での情報共有を図るため、申し送りやPC周辺の掲示を工夫する等を行えた。
- 5、災害時のマニュアルの確認に努め、防災訓練の職員参加の促しをし、災害時の当事者意識の向上に努めた。

《看護部門》

○看護活動報告

1、健康状態の把握

他職種と連携し、健康状態の把握と異常の早期発見に努め、異常時に迅速な対応を行い状態悪化の予防に努めた。短期入所ご利用者に関しても、早期の対応にて体調悪化の予防に努めた。

2、定期健康診断

入居者・・・年1回の基本健診 8月実施

職員・・・年1回の基本健診 2・3月実施

腰痛検査年2回 7月と2・3月の基本健診時に実施。(夜勤を行う職員と看護職員)

年1回のストレスチェックを実施した。

3、健康の維持

- ・健康診断を実施し、受診に繋げることができた。
- ・ご入居者の状態変化について、介護職員を中心に他部門と情報共有することができ、ご本人やご家族にとってより良い選択をすることができた。

4、感染症対策委員会の活動

感染症の知識を深めるため、施設内研修を年2回実施した。また、感染対策マニュアルの見直しや感染症を予測した取り組みが出来た。

- 5、新型コロナウイルス、インフルエンザ予防接種実施
嘱託医と協力し、国の新型コロナウイルスワクチン接種時期に沿って、適宜日程調整を行い実施した。
- 6、緊急時の対応
 - ・救急蘇生の方法と手段について定期的に勉強会を実施した。
 - ・医療依存度の高いご入居者などは、個別の医療的な内容についてのマニュアルを作成し、必要に応じて勉強会を開催した。
 - ・感染予防委員会と協力し感染拡大の予防に努めた。
- 7、他医療機関、主治医との協力体制
ご利用者の状態、症状に合わせ主治医や医療機関との連携が図れた。
- 8、ターミナルケア
看取り委員会の定期的な開催ができた。今後も看取りに関する勉強会を開催し、職員の意味の統一と積極的な関り、職員主体の看取り介護となるよう努める。
ご入居者やご家族の意思を汲み、充実した生活を最期まで支えるケアを提供するため、医療連携方針の明確化を図るとともに、ご入居者やご家族とのコミュニケーションを大事にし、職員一人ひとりの知識（気持ち）と技術の向上に努めた。

○機能訓練活動報告

- 1、利用者様の心身機能、嚥下機能、ADL 動作能力の評価について
 - ・個別介入時や食事介助にてラウンドした際などに状態の変化がみられた時、専門的な立場からの意見を各部門に報告・発信し、家族への連絡、医療機関への打診検討、生活様式や福祉用具の見直しなどに連携を図ることができた。
 - ・看護師や支援部門職員の協力し、ご家族に歩行状況や嚥下状況など説明する機会が設けた。
- 2、利用者様やご家族様からの HOPE・NEED の聴取について
 - ・ご利用者からの訴えに気づき他部門に繋げることができた。
 - ・ご家族に現状態を伝える機会があった際、希望や現在のお気持ち、ご利用者の昔のご様子を自然とお伺いすることができた。
- 3、個別、集団リハビリの実施やレクリエーション活動、気分転換等の機会の提供について
 - ・定期的な運動や気分転換の機会をつくれたことにより、「良くなった」とご利用者から言ってもらったり、機能訓練の介入を楽しみにされている話が聞かれた。また、施設生活にストレスが溜まり自分のことを話したいご利用者に対しては時間を取ってコミュニケーションを図ることで気分転換になるような関わりができた。
 - ・2人体制になったこともあり、普段居室以外で過ごすことが難しい重介助の必要なご利用者にも気分転換として屋外に散歩する機会を設けることができた。
- 4、環境整備（福祉用具の選定）について
 - ・施設にある資源の把握や効率的に使用できるよう一覧表を作成し、管理することができた。
- 5、施設資源として介助用具、レクリエーション用具、余暇活動用品の準備・作成について
 - ・栄褥感委員会にて相談し、利用者様の褥瘡予防として茶葉をアルファーマーゼで巻いたグリップを作成し使用。一時期皮膚トラブルの件数が減少し効果がみられた。
- 6、新しい知見を得るための勉強会・研修会への参加について
 - ・事務課からのアナウンスもあり、施設に案内の来ていた研修を受講することができた。
- 7、他職員に向けての勉強会の開催について
 - ・教育委員会内にて機会をもらい、他部門に向けてミニ勉強会を開催することができた。

- ・教育委員会内で発信できたことにより全体会議の場でも勉強会開催をすることができた。
- ・勉強会の内容がユニット内でも周知され、現場で取り入れてもらえている場面を目にすることができた。

《栄養部門》

- 1、地場産物を取り入れた昔ながらの季節の行事食を提供し、食事で季節感を味わっていたできるようにした。(食事報告参照)
- 2、嗜好調査の結果や日頃のラウンド時のご利用者様の声をもとに、人気のある麺やおはぎの提供を実施。秋祭り際には、要望が多かったスイーツや、常食からソフト食までの食形態に対応したおやつバイキングを実施した。
- 3、「麺」をテーマに、健康に配慮した食べ方の提案ができるよう、4月24日から9月4日からの1週間ずつを健康増進メニューとし、麺を使った新しい献立や食べ方についての提案を行った。給食便りにも麺に関する食べ方や効果を取り入れて、ユニットに掲示した。季節ごとに発行した給食便りには、大きなイラストを用いて一目で旬の食材がわかるようにし、併せて食べ方の提案を行い、ユニットに掲示した。
- 4、季節ごとに注意すべき食中毒や感染症に関すること、衛生に関すること、栄養に関すること、食事に関すること等の勉強会を行い、感染症の予防と栄養・衛生に関する知識の向上に努めるため、感染予防委員会と栄養委員会が共同で、毎月の委員会で実施したミニ勉強会の内容を周知した。
- 5、ご利用者の体調や食事摂取の状況を把握し、必要時に栄養介入できるよう、他部門と連携を深め、情報を共有し、1人1人に合わせた栄養ケアの提供に努めるため栄養ケアマネジメントの実施を継続した。カンファレンスに参加し、栄養状態に問題がある場合は、多職種協働で、栄養介入を行った。
- 6、定期的に業務分担や作業工程見直しを行い、給食業務が安全に効率よく且つ円滑に実施できるよう朝食の提供方法や体制の大幅な変更(保健所にも確認済)に伴い、勤務時間や作業工程と献立変更、配膳方法について、スムーズな食事提供が継続できるようリーダー会議で説明を行った。新たな配膳方法を実施する中で、朝食の時間に幅があることはご利用者の個々の生活リズムに合わせた食事の提供ができるメリットがあったが、既製品が増えることにより、コスト高になったり、食べやすさや味を考慮した完全調理品の選定を行うと、実際に使用できる献立のバリエーションが少なくなるというデメリットもあった。それらを加味し、提供方法の1つとして、以前から話に出ていた真空調理について、今後新たに検討・導入していく運びとなった。

《会議、各種委員会報告》

○職員全体会 (3カ月毎開催)

6月30日	利用者・家族満足度調査、理事長及び事務役職変更、4年度収支報告、コロナ対応、救急搬送対応、危険予知研修など	12月28日	特定技能外国人、新型コロナクラスター対応の反省、規程一部変更、身体拘束防止研修など
9月29日	配薬BOX刷新、事務連絡、交通安全講習、機能訓練研修など	3月29日	年度反省、各種委員会の統廃合、次年度活動についてなど

○調整会議

4月19日	自己評価の反省と対応、喀痰吸引研修など	10月18日	B C P、介護員勤務時間、コロナ検査キットなど
5月17日	自己評価の反省と対応、コロナ対策、物価高騰に伴う食材や食事内容変更など	11月15日	B C P、人事考課、各種予防接種、面会ルールなど
6月21日	満足度調査内容検討、コロナ対策、食事変更時対応、決算報告など	12月20日	光熱費節約、朝食の提供方法、職員健診、ユニット整頓、居宅事業所の対応時間など
7月19日	満足度調査関係、経費削減、コロナ対策など	1月	新型コロナクラスター発生したため中止
8月17日	満足度調査結果、ショートステイ稼働率向上など	2月21日	自己評価、次年度計画、コロナクラスターの反省、食事提供、外国人採用計画など
9月20日	次年度施設体制、外国人の起用、秋祭り開催、外出予定など	3月15日	自己評価結果検討、次年度計画、委員会統廃合など

○ユニットリーダー会議

4月6日	各種委員会報告、職員面談、互助体制、ユニット構築など	10月5日	上期反省、予防接種、各種委員会報告、各種情報共有など
5月11日	職員面談、施設サービス自己評価反省、施設研修、時間帯別責任番等	11月2日	B C P、居室内備品、リネン、各種情報共有など
6月1日	食事提供方法、満足度調査、各種委員会報告など	12月7日	水分提供、各種委員会報告、各種情報共有など
7月6日	各種委員会報告、介護員勤務時間とヘルプ職員など	1月4日	各種委員会報告、委員会の統廃合、館内整理整頓など
8月3日	家族面会、各種委員会報告、各種情報共有、経管栄養準備など	2月1日	事故検討、各種情報共有など
9月7日	人員配置、各種委員会報告、各種情報共有など	3月2日	外国人介護員の採用、各種情報共有方法など

○教育委員会

- ・書籍（月間デイ、レクリエ、ブリコラージュ）を購入。
月刊デイは過去2年分を保管し、それ以前の書籍は職員が自由に利用できるようにした。
- ・ミニ勉強会を企画し、気軽に参加できる工夫を行った。
- ・コロナ禍で自粛していた対面講義を再開し、機能訓練士や外部講師による研修を行った。

○感染・褥瘡予防委員会

- ・常にご利用者の状態を把握し、コロナ禍の影響はあったが異常の早期発見・対応ができた。
- ・新型コロナにより複数の退所者を出したことやADLが低下した方を出してしまったことを大いに反省し、マニュアルの徹底と意識の向上を図った。
- ・機能訓練士による研修を強化し、介護職員のスキルアップを図った。
- ・褥瘡の早期発見や予兆の発見段階で看護師や機能訓練士などと連携し、早期対応ができた。

○自己評価委員会

前年度は新型コロナのクラスターにより実施できなかった評価を12月に実施し、結果を各種委員会や役職者で情報共有および改善提案を検討した。

○事故防止、身体拘束防止委員会

- ・委員を中心に事故削減の情報発信に努めて一定の成果を上げた一方、服薬ミスが増加してしまった。
- ・医務部門協力のもと配薬BOXを刷新して、使い勝手の向上と事故防止に努めた。
- ・事故防止、身体拘束防止の研修を各2回実施した。

○栄養管理委員会

- ・6月に大幅な食事提供方法の変更となったため、食事内容や食形態の対応方法などについて、各委員にも他職員へその内容の理解と周知を促し、安全で食べやすい食事の提供ができるよう、改善が必要なことを中心に話し合いを行った。
- ・いつもと違う麺の献立や非常食提供でユニット調理が必要となる際には、調理法や食材の扱い方について説明を行い、大きな間違いや混乱なく食事提供を行うことができた。
- ・それぞれのユニットの課題を話し合い、食事介助の必要な方の人数に合わせた細やかな配膳時間の変更や、配膳方法の変更について、適宜見直しを行った。
- ・各委員それぞれの視点から資料を準備し、様々な内容での勉強会の実施を行うことができた。感染症への対応の際に、ディスプレイの大きさや、感染対応に切り替わる際の職員への周知方法等、課題が多くあったが1つ1つ改善できた。

○行事委員会

- ・昨年に引き続きコロナの影響で行事らしい行事が計画できず、外出等の催しも例年に比べ回数が減ってしまった。
- ・介護度の重症化により福祉作品展に参加できる方が減少したが、複数のユニットが協力して一つの作品を作成し、物を作り上げる喜びを感じて頂けた。

○看取り委員会

- ・看取りに関してご家族の意向に沿って納得のいく説明や相談の機会を多く持ち、安心して最後が迎えられるよう不安の軽減に努めた。
- ・ケアカンファレンスを通じ介護計画を基に、職員間の情報共有を行った。

○業務改善委員会

- ・委員会内で活発な意見交換が行われ、年間50以上の提案が出された。
- ・委員の中に介護リーダーが3名居たため、課題に対する意思決定が迅速に行われた。
- ・ICT化を推進し、情報共有や意見収集が迅速で漏れが無いよう工夫を行った。

○衛生委員会

- ・毎月予定通り全ての職種が働き易いと感じられる環境を作る意見交換ができた。
- ・新型コロナにより計画当初の時期とは変更となったが、予定していた定期健康診断やストレスチェックを行い、昨年と比べ一定の改善が得られた。
- ・職場環境の適正化を継続するため、①アサーション②新型コロナ5類変更により変更になる

こと③アンダーマネジメント④レジリエンス⑤若年性脳血管疾患⑥長時間勤務について研修を行った。

○安全委員会

- ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため研修は行わず、看護師による実地指導を適時行うことで安全な吸引実施に努めた。
- ・指導職員に必要な資格を取得するために、看護師が研修に参加した。

《研修実績》

月	外部講師研修	施設内研修
5月		個人衛生勉強会
6月		危険予知トレーニング
7月		感染症対策、介護記録の書き方
8月		拘縮に対する良いポジショニング、高齢者脱水
9月	普通救急救命	正しい福祉用具の選定・使い方、秋バテと栄養
10月		寒暖差アレルギーについて、ノロウイルス研修
11月		感染症対策、インフルエンザ対策
12月		身体拘束・虐待防止研修
1月		人権擁護・法令遵守（初中級）
2月	オムツの当て方による排泄研修	
3月		人権擁護・法令遵守（上級）、食の温度管理

《ボランティア受入・地域行事・施設行事》

月	ボランティア	地域行事	施設行事
7月			紫陽花見学外出
9月			敬老会
10月			菊人形見学
11月			秋祭り
12月		福祉作品展	

※受入れや行事は新型コロナウイルス感染防止の為に大部分が自粛

《行事食実績》

4月	花見ご飯、麴で健康増進週間	11月	おやつバイキング、秋祭り芋煮、リクエストメニュー
5月	端午の節句、リクエストメニュー		
6月	おはぎの日	12月	冬至（かぼちゃ）、クリスマスメニュー、年越しメニュー
7月	七夕メニュー、食欲増進メニュー		
8月	リクエストメニュー、お盆メニュー	1月	正月料理、三日とろろ、七草粥
9月	敬老会お祝い膳、麴で健康増進週間	2月	節分、麴で健康増進週間
	秋分の日、リクエストメニュー		
10月	みず和の郷開設記念メニュー	3月	ひな祭り、春分の日（ぼたもち）、リクエストメニュー

《居宅介護支援事業所》

- ・新型コロナ5類移行後も感染対策に留意し、医療機関、介護サービス事業者など、多職種連携を図ることができた。
- ・8月より職員増員し3名体制となったが、法人内事業所の人員不足もあり10月よりやむを得ず2名体制に戻る。
- ・ご利用者の意向を第一に尊重し、系列事業所が提供するショートステイの利用者数増加に努めた。
- ・ケアマネ担当件数の増加を目指し、紹介先である地域包括支援センターや医療機関にも挨拶回りを行い、困難事例なども積極的に受け入れた。
- ・例年との違い利用者の入院、入所、死亡者が多く、1～3月新規平均3名の受け入れに対し、契約終了者多数。介護支援専門員1人あたりの件数の伸び悩みがあった。

《利用者実績報告》

	居宅サービス 作成依頼件数	要介護区分				
		1	2	3	4	5
4月	32	17	4	7	2	2
5月	36	18	7	7	2	2
6月	39	16	10	7	3	3
7月	38	14	11	8	3	2
8月	44	16	14	8	4	2
9月	49	18	16	9	4	2
10月	51	19	17	9	3	3
11月	53	18	19	10	3	3
12月	55	20	19	12	1	3
1月	53	18	18	13	2	2
2月	49	16	19	11	2	1
3月	51	18	20	9	3	1
合計	550	208	174	110	32	26
昨年合計値	405	194	92	53	25	41

《資質向上のための会議参加・外部研修等》

実施月日	場所	参加者名	研修内容
7月7日	市民会館	管理者 CM1名	「これからの認知症医療・ケアを考える」
7月12日	ZOOM	管理者 CM1名	居宅間連携会議(蓬莱地域)
8月8日	A0Z 4階	管理者	「その人らしい生活に寄り添ったリハビリの活用」
8月24日	松川支所	CM2名	松川地域ケア会議 「障がい者に関わる事例検討会」
9月29日	福島市保健 福祉センター	CM1名	高齢者に関わる皆さんに知ってほしい結核の基礎知識
9月16日	コラッセ	管理者 CM1名	オレンジフェスタ『認知症サポーター養成講座』
10月6日	市民会館	管理者	「支援者対象 若年性認知症基礎研修」
11月17日	ひまわり苑 会議室	管理者 CM1名	南地域交流会：緩和ケア学習会「終末期患者の身体の変化の特徴とケアのポイント」
11月29日	ZOOM	管理者	定期巡回型・随時対応型訪問介護看護活用セミナー
11月30日	松川支所	CM1名	松川地域ケア会議 『身寄りのない方の支援』
12月11日	ZOOM	管理者 CM1名	認定調査現任研修
1月26日	ZOOM	管理者 CM1名	ケアマネのためのテーマ別研修「仕事と介護の両立支援」
2月16日	ZOOM	管理者	高齢者虐待防止義務化 医療・介護現場における10の対応事例
2月21日	ZOOM	管理者	カスタマーハラスメント